全ての児童生徒学生にとって自己実現に役立ち主体的に楽しむ「読み書き」や「学習」とは③
−読み書き困難と評価・学習意欲やストレスの関係−

企画者　川崎聡大（東北大学大学院教育学研究科）
加藤哲則（愛媛大学教育学部特別支援教育講座）
司会者　荻布優子（横浜市西部地域療育センター）
松﨑　泰（東北大学加齢医学研究所）
話題提供者　川崎聡大（東北大学大学院教育学研究科）
加藤哲則（愛媛大学教育学部特別支援教育講座）
松﨑　泰（東北大学加齢医学研究所）
高橋知音（信州大学学術研究院　教育学系）
鈴木真人（兵庫県立神戸聴覚特別支援学校）
指定討論者　樋口一宗（東北福祉大学）

KEY WORDS: 学習障害・学習意欲・学生支援

【企画趣旨】

我々は様々な要因で学習に困難さを持つ当時者の観点からトップダウン的思考で「読み書き」や「学習」の必要性や指導・支援のあり方を再検討し、各ライフステージでの必要な支援や目標とは何かについて検討を加えてきた。本年度の企画趣旨は読みや書きが実際の生活や学習場面に及ぼす影響を様々な障害やライフステージから研究知見や実践例を取り上げて生活・学習を直接良い方向に変えることの出来る読み書きの支援とは何か検討することにある。

差別解消法施行以降、学習面の困難さに対する支援リソースは増加し新たな支援の枠組みも提案されるようになったが、発達段階や個々の生活状況、目的に応じた支援や合理的配慮がなされる段階には未だいたっていない。現状は「目に見える困難さ」への配慮がなされることが漸く一般的となった段階と考えられ、これからは系統だった、また、オーダーメイド化された支援、配慮やその効果について検証していく段階に向かわねばならないと考える。

読み書き困難の支援においても読み書きの困難さのみに着目し、その解消をゴールとした支援はもはや前時代的であると考えたい。前回より引き続き学齢期だけでなく、そもそも何故「学習面に関連する困難さを取り上げるのか」を命題として関、大人にいたるまでの人生の様々なステージの中での読みや書き、学習面の問題を取り上げる予定である。

今回特に中学生以降の段階の現状、支援、アセスメントについて議論を深めたいと考える。「大学生の読み書き困難とその評価」「学習意欲やストレスと読み書きの関連」を大きなテーマとして、教育・福祉・医療の異なる観点から検討を深めることを本自主シンポの企画趣旨としている。

【話題提供者の趣旨】

加藤：学齢聴覚障害児の日本語の読み能力と学力の関係について，包括的読み能力検査と標準学力検査の関連から検討を加えた結果を基に，読み能力が学力に及ぼす影響について話題提供する。

鈴木：聴覚特別支援学校在籍生徒の英語学習における学習意欲と学業成績の関係について，学力を予測する学習意欲尺度（Kawasaki ら 2016）を用いて聴覚特別支援学校に在籍する中学部及び高等部生徒 88 名を対象に質問紙調査を実施した。その結果から得られた知見を基に，学習意欲と学業成績について話題提供する。

高橋：大学生を対象に、読み書きの困難に関する質問紙と、実際の読み書きの流暢さと正確さを査定するための課題を開発した。読み書き課題は、音読課題、黙読課題、視写課題から構成され、質問紙は、現在および小学生時代の書き、読み、その他（聞く・話す・計算する等の項目で構成）の計６つの下位尺度から構成されている。課題の概要と信頼性、妥当性に関する根拠について紹介する。

松﨑：ある大学に在籍する学生の読み能力と，関連する認知的背景要因に関する調査の結果を報告する。評価した観点は，音読流暢性と，視覚的注意，視覚的記憶や構成といった認知処理であった。大学生と対象とした先行研究の知見との比較から，大学生の学力と読み能力，関連する認知的要因の個人差と，その支援に関する話題を提供する。

川崎：現在、読みの苦手さが実際の行為に及ぶ際に本人に与えるストレスの可視化を試みており、その知見を照会する。読み行為の苦手意識が当事者に及ぼす生理学的影響を特に自律神経系の指標を基に明らかにする。大学生を対象とし、高橋ら（2015）の読み課題を基に実施した研究知見について報告し、読み困難とその苦手さ意識が心理的ストレスを生じる生理学的過程の一端について明らかにする。

【指定討論者の趣旨】

樋口：キャリア教育の観点から「学ぶこと」の意義について各話題提供者、フロアの異なる立場や役割や意見を共有しつつ検討を深める。

【文献】

Kawasaki.et al.Causal relationship between scholastic ability and willingness for learning, writing-skill -a structural equation modeling approach-:31st International Congress of Psychology (ICP2016)

(KAWASAKI Akihiro, KATO Akinori, OGINO Yuko, MATSUZAKI Yutaka, TAKAHASHI Tomone, Suzuki Masato, HIGUCHI Kazumune)